**１．事例：小規模大学院・英語特別コースに設置された日本語教室**（ロジックモデル策定 　プログラム実施テンプレート　―　練習1と2，p72）20140314菅谷有子

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 資源 | | 活動 | 短期のアウトプット | 短期と長期のアウトカム | インパクト |
| 我々の一連の活動を達成するには、下記の事項が必要である。 | | 我々の問題と資産に取り組むために下記の活動を実施する。 | これらの活動を達成したら、その成果として下記の事実、又はサービス提供を生み出すことを期待する。 | これらの活動を達成したら、その成果として1~3年後、それから4から6年後に下記の変化が生じると期待する。 | これらの活動を達成したら、その成果として7~10年後には下記の変化が生じると期待する。 |
| ヒト | ・学習者（留学生）  ・日本語教師  ・運営協力者（専門教員、事務スタッフ、IT関連技術協力者）  ・日本人ボランティア | ・当該教室に適した日本語教師の確保。  ・教師間の情報共有。  ・教師間打ち合わせによるカリキュラム及びスケジュール調整。  ・授業計画・上申書提出  ・専攻教員との打ち合わせ、報告、要望伝達、協力依頼。  ・事務職員への情報提供依頼、報告、協力依頼。  ・獲得可能な予算申請。  ・IT関連協力者への協力依頼。PC等の設定、HP作成等。  ・ボランティアへ年間行事・授業の参加依頼。  ・校外学習の計画  ・修了式準備（各方面への案内、食事等パーティ準備）  ・学内外日本語教育機関との情報交換。 | ・学生募集（専門教員、事務室、ポスター、チューターへメール等）  ・ホームページ作成/更新  　作業  ・各学期のコース提供（授業）  ・メールによる連絡（教師間、学生、事務、専門教員とも）  ・年間行事の実施（修了式、校外学習等）  ・修了証書作成&授与  ・文集（学習者成果物）作成  ・ニーズ調査とプログラム評価実施  ・教室内・学内日本語教師間での研究・教材開発。 | ＜学習者＞  ・学習者の日本語によるコミュニケーション能力の向上。  ・日本文化・日本社会への関心や理解が深まる。  ・学習者間の交流・親睦を深める。  ・心理的安らぎ、研究室の緊張感からの解放。  ・ゼミやフィールドワークなど、研究活動に役立つ。  ・プログラムの継続的な改善 | ・当該研究機関で円滑な研究生活を送り、研究成果が出る。  ・英語特別コースの持続的発展。  ・国際的な学術交流が促進される。  ・専門教員、事務スタッフ等プログラム関係者の認知と理解が深まり、日本語教育への支援強化  **⇒時間割調整**  **HPとそのリンクの充実、**  **教材作成支援、　教員の待遇改善**  **⇒日本語教師の当事者意識、責任感** |
| モノ | ・教室  ・教材  ・教育機器及び備品 |
| カネ | ・経費（人件費、物件購入費、活動費）  ・獲得資金 |
| 情報 | ・情報システム  ・メールアカウント  ・専攻年間授業日程、カリキュラム  ・新入生情報  ・学内日本語教育機関の情報  ・日本語教育関連情報 | ＜専門教員・事務スタッフ・協力者＞  ・認知と理解が深まり、日本語教育への支援強化 |
| ＜日本語教師＞  ・教育、運営能力向上  ・研究・教材開発等事故の活動領域の拡大とその成果、達成感 |

**２**．**事例：小規模大学院・英語特別コースに設置された日本語教室（**ロジックモデル策定：プログラム変化理論テンプレート―練習３、P75) 20140314菅谷

|  |
| --- |
| 戦略　　　　　　　　　　　　　　　　　　⑤ |
| １．学生の満足度を高め、学習意欲を持続。  ２．コース内容を学生のニーズに合わせて改善。  ３．専門教員の認知と理解を図り支援を得る。  ４．日本語教師間の信頼と連携を図る。  ５．教育環境の改善（教室、教材、備品、活動資金獲得、業務に見合った評価） |

|  |
| --- |
| 想定事項　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　⑥ |
| １．専門教員の理解により、専門教育・研究時間と日本語の授業時間の重なりが解消され、出席率の向上、参加者の増加が可能。  ２．単位制導入の可能性→学習の継続性促進。  ３．日本語教員の労働環境改善による教育の質の向上は、教育内容、プログラムの改善に役立つ。 |

|  |
| --- |
| 問題又は課題　　　　　　　　　　　　　　① |
| １．専門の授業、ミーティング等で受講者数の出席率の向上、継続が困難。  ２．専攻の特色ある授業内容の実現。  ３．専門教員及び事務職員の協力を得ること。  ４．日本語教員の労働環境、連絡・事務的業務など教育業務以外の環境改善。非常勤による運営から来る組織の脆弱さ。  ５．日本語教員の新旧交代に伴う業務負担。  ６．新規ボランティア等、外部協力者の獲得。 |

|  |
| --- |
| 期待する成果（アウトプット・アウトカム、インパクト）　　　　　　③ |
| １．留学生相互の情報交換、親睦、修了後の人的ネットワークの基盤。  ２．留学生受入に関する専門教員と日本語教員の協力関係の強化。  ２．研究に役立つ教材を含む教育内容、プログラムの開発と改善を行える環境を整備する。  ３．日本語教員の持続的な質の向上及びその実現のための環境改善によりプログラムの内容が充実。 |

|  |
| --- |
| 影響を与える要素　　　　　　④ |
| １．専攻の受入留学生数の変動。  ２．英語特別コースとしての獲得資金の流動性。  ３．受講者の背景やニーズの変化。  ４．専門教員の認知と理解、支援の程度。  ５．日本語教員の新旧交代。 |

|  |
| --- |
| コミュニチィーのニーズ/資産　　　　　　② |
| １．留学生が日本での研究生活を円滑化、日本語コミュニケーン能力の向上を図る。  ２．日本の社会・文化への理解を深め、人的交流を促進する。  ３．教室とそれに付随する備品、教材の保証。  ４．非常勤講師としての日本語教員枠あり。  （開講当初は教務補佐→非常勤１名+教務補佐→全員非常勤講師・任期なし）  ５．研究及び教材開発を可能とする環境。 |